

日本天文学会昭和62年度春季年会記事

昭和62年度春季年会は、5月12日(火)~14日(木)の3日間、京都市左京区の京大会館で開催された。

講演数は口頭によるもの208、ポスターによるもの36で、出席者は約400名であった。今回始めて設けたポスターによる発表では特に会期中に討論のための時間帯を用意し、概ね好評を得た。また post dead-line papers のための時間帯も用意したが今回は該当する講演の申込みはなかった。

講演の座長は次の方々におねがいをした。

A会場(1階講演室)

| | | |
|-------|----|------------------|
| 5月12日 | 午前 | 宮本昌典 (A 1~ 7) |
| | | 松岡勝 (A 8~ 15) |
| | 午後 | 寿岳潤 (A 16~ 27) |
| | | 海部宣男 (A 28~ 40) |
| 13日 | 午前 | 田原博人 (A 41~ 49) |
| | | 海野和三郎 (A 50~ 57) |
| | 午後 | 中野武宣 (A 58~ 65) |
| | | 高窪啓弥 (A 66~ 72) |
| 14日 | 午前 | 齋藤修二 (A 73~ 82) |
| | 午後 | 青木信仰 (A 83~ 93) |
| | | 佐藤勝彦 (A 94~103) |

B会場(2階会議室)

| | | |
|-------|----|------------------|
| 5月12日 | 午前 | 尾崎洋二 (B 1~ 7) |
| | | 辻隆 (B 8~ 15) |
| | 午後 | 小暮智一 (B 16~ 27) |
| | | 杉本大一郎 (B 28~ 40) |
| 13日 | 午前 | 近藤正明 (B 41~ 49) |
| | | 牧田貢 (B 50~ 58) |
| | 午後 | 古在由秀 (B 59~ 66) |
| | | 向井正 (B 67~ 73) |
| 14日 | 午前 | 小平桂一 (B 74~ 84) |
| | 午後 | 藤本光昭 (B 85~ 95) |
| | | 土佐誠 (B 96~106) |

なお、今回はマゼラン星雲中に発見された超新星に関する一般向けの講演会が開催された。参加者は約250人
名称:「マゼラン星雲に現れた超新星」

日時: 5月12日(火) 17時45分~21時

場所: 京大会館春季年会A会場(101号室)

司会: 早川幸男理事長

内容(題目・講演者名(所属)):

1. 「超新星爆発——そこで何が起こったか」
佐藤勝彦(東京大学 理学部)
2. 「この目で見た超新星——オーストラリアでの観測」
小倉勝男(国学院大学 自然科学)
3. 「ニュートリノを捕えた!」
戸塚洋二(東京大学 理学部)
4. 「重力波はやってきたか?」
藤本真克(東京大学 東京天文台)
5. 「X線衛星“ぎんが”による観測」
横野文命(宇宙科学研究所)

会場はいっぱいの聴衆にうめつくされ、予定時間を超えて熱心な討論が行なわれた。

賛助会員のために開催される展示コーナーには今回、恒星社厚生閣、共図計装社、西村製作所、ニホン・ミック、ニュートリノの5社の参加があった。

総会議事

昭和62年度通常総会は5月13日16時10分~17時30分、京都市、京大会館101号室で開催された。出席者は約150名。

議長: 理事長 早川幸男

総会次第:

1. 天体発見賞贈呈の件
2. 昭和61年度会務報告
3. 昭和61年度会計報告・監査報告
4. 昭和62年度予算
5. 天体発見賞細則改定
6. 日本学術会議会員候補者推薦内規決定
7. 次期理事長・副理事長の選出
8. 次期理事の指名
9. 欧文研究報告編集委員依頼
10. 内地留学奨学金選考委員依頼
11. 評議員選挙管理委員依頼
12. 天体発見賞選考委員依頼
13. 会計監査依頼
14. 旧理事長挨拶
15. 新理事長挨拶

◇天体発見賞贈呈の件

評議員会の議決に基づき、以下の7件に天体発見賞・天体発見功労賞を贈呈する件が提案され、満場一致で可決された。

1. 和久田 実氏 「1986年白鳥座新星」
天体発見賞
2. 鈴木 充氏 「1986年アンドロメダ座新星」
天体発見賞
3. 菅野松男氏 「1987年ヘルクレス座新星」
天体発見賞
本田 實氏 「同上」
天体発見功労賞
4. 浦田 武・新島恒男氏 「浦田・新島周期彗星」
天体発見賞
5. 香西洋樹・古川麒一郎氏 「Skiff・香西周期彗星」
天体発見功労賞
6. 西川 登氏 「西川・高見沢・多胡彗星」
天体発見賞
高見沢今朝雄・多胡昭彦・三ツ間重男氏 「同上」
各々に天体発見功労賞
7. 寺迫正典氏 「寺迫彗星」
天体発見賞

引続き表彰式が行われ、理事長より表彰状が手渡された。なお、香西、古川両氏は、表彰を辞退され、本田、多胡、三ツ間氏は、式に出席されず、別途伝達することとなった。

◇昭和61年度会務報告

庶務理事より、昭和61年度会務報告があり、原案どおり承認された(付録1)。

◇昭和61年度会計報告・監査報告

会計理事より、昭和61年度会計報告があり、これに関して会計監査より監査の結果正常であった旨の報告がなされ、原案どおり承認された(付録2)。

◇昭和62年度予算

会計理事より、昭和62年度予算についての説明があり原案どおり承認された(付録3)。

◇天体発見賞細則改定

庶務理事より、評議員会において決定された天体発見賞細則について、報告があった(付録4)。

◇日本学術会議会員候補者推薦内規決定

庶務理事より、評議員会で決定された日本学術会議会員候補者推薦内規について報告があった(付録5)。

◇次期役員の選出・指名および依頼

評議員会の推薦に基づいて、理事長に高窪啓弥氏、副理事長に石田憲一氏、藤本光昭氏を選出した。続いて、新理事の指名、欧文研究報告編集委員・内地留学奨学金選考委員・天体発見賞選考委員の依頼が行われ、原案どおり承認された。また評議員会の指名に基づき、評議員選挙管理委員および会計監査の承認が行われた。承認された役員は次の通りである。

次期役員(任期:昭和62年5月~昭和64年5月)

A. 理事(定員:法定理事15名,支部関係理事25名)

- 理事長:○高窪啓弥
副理事長:○石田憲一 ○藤本光昭
庶務理事:○家 正則 ○神田 泰 池内 了
会計理事:○野本憲一 祖父江義明
欧文研究報告編集理事:
○内田 豊* ○小平桂一 尾崎洋二
木下 宙 寿岳 潤 宮本昌典
天文月報編集理事:
○甲斐敬三* ○吉澤正則 加藤万里子
小林行泰 林 正彦 水野孝雄
支部理事関係
北海道:○羽部朝男
水 沢: 藤下光身
仙 台:○氏家慧一
東 京:○蓬茨靈運 金沢輝男 芝井 広
村山定男
名古屋:○向井 正 舘目信三 野口邦男
京 都:○湯浅 学 齊藤 衛 舞原俊憲
中・四国: 富田憲二
九 州: 荒井賢三

(○印:法定理事,*印:編集長)

B. 欧文研究報告編集委員(定員10名)

- 青木信仰 古在由秀 小暮智一
佐藤文隆 杉本大一郎 高窪啓弥
田中靖郎 藤本光昭 堀 源一郎
森本雅樹

C. 内地留学奨学金選考委員(定員6名)

- 大脇直明 内海和彦 小島信久
定金晃三 長谷川俊雄 村田俊一

D. 天体発見賞選考委員

- 香西洋樹 古在由秀 山下泰正

E. 評議員選挙管理委員(定員5名)

- 山下泰正(委員長) 佐々木 稔
田辺俊彦 中田好一 長谷川哲夫

F. 会計監査 辻 隆 近藤雅之

【付録1】 昭和61年度 会 務 報 告

社団法人 日本天文学会

昭和61年度は、本会創立79年度、社団法人設立後53年にあたる。

本年度に行った事業

(イ) 出版

- 1) 欧文研究報告(Publications of the Astronomical

Society of Japan)

- 第38巻 第2号 152頁 昭和61年6月5日
 第38巻 第3号 190頁 昭和61年7月25日
 第38巻 第4号 156頁 昭和61年8月25日
 第38巻 第5号 162頁 昭和61年10月25日
 第38巻 第6号 144頁 昭和61年12月25日
 第39巻 第1号 200頁 昭和62年3月25日

2) 天文月報

第79巻第4号から第80巻第3号まで毎月発行

(ロ) 年会

1) 春季年会

昭和61年5月13~15日

東京都府中市市民会館

講演数 244, 出席者 約450名

特別企画: ハレー彗星写真展, ハレー彗星に関する対話と講演の夕べ。

2) 秋季年会

昭和61年10月22~24日

高知市商工会館

講演数 199, 出席者 約300名

特別企画: 公開講演会(高知県理科教育研究会共催)

総会及び評議員会, 臨時評議員会

(イ) 定期総会

昭和61年5月14日 16時30分~18時

東京都府中市市民会館で開催

議長: 早川幸男

- 議題: 1. 昭和60年度会務報告
 2. 昭和60年度会計報告及び会計監査報告
 3. 昭和61年度予算
 4. 第6期評議員改選
 5. その他, 会費改訂素案
 内地留学奨学金に関する内規の改訂
 日本学術会議会員候補者の学会推薦内規案

(ロ) 評議員会

昭和61年4月19日 13時30分~16時

学士会館 本郷分館

議長: 北村正利

- 議題: 1. 天体発見賞贈呈の件
 2. 昭和60年度会務報告

3. 昭和60年度会計及び監査報告
 4. 昭和61年度予算
 5. 昭和61年度事業計画
 6. 内規改訂2件
 7. その他

(ハ) 臨時評議員会

昭和61年10月22日 12時~12時55分

高知市商工会館

議長: 海野和三郎

議題: 1. 会費改訂について

2. その他

その他の主な事項

- (イ) 昭和61年度学術交流費によって, 春季年会(府中)36名, 秋季年会(高知)53名, 計89名に対し旅費補助を行った。
 (ロ) “ハレー彗星をとらえた”を会員に頒布した。
 “星座早見, 同ジュニア判”を改訂した。
 (ハ) 新たに7社が賛助会員となった。
 (ニ) 文部省から昭和61年度研究成果刊行補助金として231万円の交付決定通知があった。
 (ホ) 契約: (株)丸善と“欧文研究報告の価格”について,
 (株)三省堂と“星座早見”について,
 東京大学出版会と“ハレー彗星をとらえた”について,
 それぞれ契約した。
 (ヘ) 山田科学振興財団から舞原俊憲氏が昭和61年度の研究援助を受けた。
 (ト) 内地留学奨学生として, 畑英利氏が決定した。
 (チ) 文部省科学研究費補助金の審査委員(第一段)に高窪啓弥, 小暮智一の両氏を推薦した。
 (リ) 東京天文台の一般公開を後援した。
 (ス) 昭和62年度事業計画の一環として“流星観測用星図”“天文月報用ローリングファイル”を用意した。

会 員 数

| | 昭和60年度末現在 | 増 | 減 | 昭和61年度末現在 |
|------|-----------|-----|----|-----------|
| 特別会員 | 569 | 42 | 7 | 604 |
| 通常会員 | 1,638 | 95 | 75 | 1,658 |
| 賛助会員 | 43 | 7 | 0 | 50 |
| 計 | 2,250 | 144 | 82 | 2,312 |

【付録2】 昭和61年度 収支計算書

社団法人 日本天文学会

(昭和61年4月1日~昭和62年3月31日)

【一般会計】

1. 収支計算の部

収入の部 (単位: 円)

| 勘定科目 | 予算額 | 決算額 |
|--------------|------------|------------|
| 大・中・小科目 | | |
| 基本財産運用収入 | 280,000 | 303,500 |
| 基本財産利息収入 | 280,000 | 303,500 |
| 事業収入 | 14,420,000 | 16,507,181 |
| 欧文研究報告発行事業収入 | 8,900,000 | 10,937,740 |
| 購読料 | 5,300,000 | 5,527,500 |
| 掲載料 | 2,400,000 | 3,695,460 |
| 別刷代 | 1,200,000 | 1,714,780 |
| 天文月報発行事業収入 | 4,720,000 | 4,632,491 |
| 購読料 | 1,400,000 | 1,305,674 |
| 別刷代 | 20,000 | 296,540 |
| 広告料 | 3,300,000 | 3,030,277 |
| 年会事業収入 | 800,000 | 936,950 |
| 予稿集頒布収入 | 300,000 | 300,950 |
| 参加費 | 500,000 | 636,000 |
| 会費収入 | 10,700,000 | 11,279,845 |
| 特別会員会費収入 | 5,400,000 | 5,944,900 |
| 通常会員会費収入 | 5,300,000 | 5,334,945 |
| 印税収入 | 1,200,000 | 5,004,000 |
| ハレー彗星写真集印税収入 | 0 | 1,344,000 |
| 星座早見印税収入 | 1,200,000 | 3,660,000 |
| 補助金収入 | 2,400,000 | 2,310,000 |
| 文部省刊行補助金収入 | 2,400,000 | 2,310,000 |
| 雑収入 | 1,150,000 | 1,617,057 |
| 受取利息 | 400,000 | 389,227 |
| その他の収入 | 750,000 | 1,227,830 |
| 前期繰越収支差額 | 8,214,238 | 8,214,238 |
| 前期繰越収支差額 | 8,214,238 | 8,214,238 |
| 収入合計 (A) | 38,364,238 | 45,235,821 |

支出の部

| 管 理 費 | 6,180,000 | 6,846,629 |
|-------------|------------|------------|
| 人謝件 | 2,700,000 | 2,741,187 |
| 謝金 | 200,000 | 1,096,500 |
| 会議費 | 200,000 | 264,228 |
| 負担金 | 80,000 | 81,000 |
| 旅費 | 830,000 | 548,940 |
| 送金 | 400,000 | 473,850 |
| 什器 | 300,000 | 0 |
| 消耗品 | 600,000 | 722,671 |
| 印刷製本 | 100,000 | 145,920 |
| 光熱水料 | 100,000 | 62,814 |
| 賃借料 | 450,000 | 500,112 |
| 保険料 | 40,000 | 60,710 |
| 手数料 | 80,000 | 87,717 |
| 雑費 | 100,000 | 60,980 |
| 事業費 | 24,750,000 | 28,908,970 |
| 欧文研究報告発行事業費 | 12,230,000 | 15,968,224 |
| 直接出版費 | 8,800,000 | 12,517,626 |
| 別刷印刷費 | 780,000 | 1,040,460 |
| 人謝件 | 700,000 | 818,008 |
| 謝金 | 750,000 | 521,220 |
| 送金 | 850,000 | 763,620 |
| 消耗品 | 250,000 | 181,310 |
| 雑費 | 100,000 | 125,980 |
| 天文月報発行事業費 | 10,050,000 | 10,437,240 |
| 直接出版費 | 6,500,000 | 6,607,680 |
| 別刷印刷費 | 500,000 | 436,130 |

| | | |
|------------------|------------|------------|
| 人謝件 | 600,000 | 829,023 |
| 謝金 | 500,000 | 651,360 |
| 送金 | 1,500,000 | 1,571,987 |
| 消耗品 | 350,000 | 341,060 |
| 雑費 | 100,000 | 0 |
| 年会事業費 | 2,470,000 | 2,503,506 |
| 予稿集印刷費 | 1,300,000 | 1,308,550 |
| 謝金 | 400,000 | 377,450 |
| 送金 | 270,000 | 273,090 |
| 会场費 | 300,000 | 382,825 |
| 消耗品 | 100,000 | 120,461 |
| 雑費 | 100,000 | 41,130 |
| 退職給与引当預金支出 | 100,000 | 104,100 |
| 退職給与引当預金支出 | 100,000 | 104,100 |
| 予備費 | 7,334,238 | 728,200 |
| 予備費 | 7,334,238 | 728,200 |
| 支出合計 (B) | 38,364,238 | 36,587,899 |
| 次期繰越収支差額 (C=A-B) | 0 | 8,647,922 |

2. 正味財産増減計算の部 (単位: 円)

| 勘定科目 | 決算額 |
|------------------|------------|
| 大・中科目 | |
| 増加の部 | |
| 資産増加額 | |
| 退職引当預金増加額 | 104,203 |
| 負債減少額 | |
| 前受会費減少額 | 489,950 |
| 前期繰越増減差額 | |
| 前期繰越増減差額 | 3,130,843 |
| 増加額合計 (D) | 3,724,996 |
| 減少の部 | |
| 資産減少額 | |
| 什器備品償却額 | 500,545 |
| 貯蔵品減少額 | 5,298 |
| 負債増加額 | |
| 退職給与引当金繰入額 | 104,203 |
| 減少額合計 (E) | 610,046 |
| 次期繰越増減差額 (F=D-E) | 3,114,950 |
| 剰余金合計 (G=C+F) | 11,762,872 |

昭和61年度 収支計算書

【特別会計】

(単位: 円)

| 会計種目/勘定科目 | 予算額 | 決算額 |
|-------------|-----------|-----------|
| 学術交流費特別会計 | | |
| 収入の部 | | |
| 賛助会員会費収入 | 1,200,000 | 1,319,600 |
| 受取利息 | 12,000 | 12,000 |
| 前期繰越収支差額 | 76,770 | 76,770 |
| 収入合計 | 1,288,770 | 1,408,370 |
| 支出の部 | | |
| 学術交流費 | 1,280,000 | 1,318,340 |
| 予備費 | 8,770 | 6,400 |
| 支出合計 | 1,288,770 | 1,324,740 |
| 次期繰越収支差額 | 0 | 83,630 |
| 剰余金 | 0 | 83,630 |
| 内地留学奨学金特別会計 | | |
| 収入の部 | | |
| 基本財産利息収入 | 240,000 | 242,478 |
| 前期繰越収支差額 | 15,976 | 15,976 |
| 収入合計 | 255,976 | 258,454 |
| 支出の部 | | |
| 奨学金支出 | 250,000 | 230,000 |
| 予備費 | 5,976 | 600 |
| 支出合計 | 255,976 | 230,600 |
| 次期繰越収支差額 | 0 | 27,854 |
| 剰余金 | 0 | 27,854 |

貸借対照表

社団法人 日本天文学会

(昭和62年3月31日)

【一般会計】

(単位: 円)

| 資 産 の 部 | | | | 負 債 及 び 正 味 財 産 の 部 | | | |
|-----------------|---------------|------------|--|---------------------|------------------------------|------------------------------|-----------|
| 勘 定 科 目 | | 金 額 | | 勘 定 科 目 | | 金 額 | |
| 大 科 目 | 中 科 目 | | | 大 科 目 | 中 科 目 | | |
| 流 動 資 産 | 現 金 | 3,339,227 | | 流 動 負 債 | 未 払 金 | 2,727,477 | |
| | 預 手 会 | 167,392 | | | 前 受 会 費 | 29,000 | |
| | 取 扱 金 | 697,640 | | | | | |
| | 未 収 金 | 1,196,840 | | | | | |
| | 未 償 還 金 | 100,000 | | | | | |
| | 有 価 証 券 | 6,600,000 | | | 流 動 負 債 合 計 | | 3,453,177 |
| 流 動 資 産 合 計 | | 12,101,099 | | 固 定 負 債 | 退 職 給 与 引 当 金 | 104,203 | 104,203 |
| 固 定 資 産 | 退 給 与 引 当 預 金 | 104,203 | | 基 本 金 | 基 本 金 | | 5,000,000 |
| 有 形 固 定 資 産 | 什 器 備 品 | 1,768,013 | | 剩 余 金 | 次 期 繰 越 収 支 差 額 (うち当期増加額) | 8,647,922 | |
| | 貯 蔵 品 | 1,346,937 | | | | 次 期 繰 越 増 減 差 額 (うち当期減少額) | 3,114,950 |
| そ の 他 の 固 定 資 産 | 投 資 有 価 証 券 | 5,000,000 | | | | 剩 余 金 合 計 | |
| 固 定 資 産 合 計 | | 8,219,153 | | 正 味 財 産 合 計 | | 16,762,872 | |
| 資 産 合 計 | | 20,320,252 | | 負 債 及 び 正 味 財 産 合 計 | | 20,320,252 | |

【特別会計】

(単位: 円)

| 学 術 交 流 費 | | | | | | | |
|---------------------|-------------|-----------|--|---------------------|------------------------------|------------------------------|-----------|
| 流 動 資 産 | | 現 金 預 金 | | 剩 余 金 | | 次 期 繰 越 収 支 差 額 (うち当期増加額) | |
| | | 83,630 | | | | 83,630 | 6,860 |
| 資 産 合 計 | | 83,630 | | 剩 余 金 合 計 (正 味 財 産) | | 83,630 | |
| 内 地 留 学 奨 学 金 | | | | | | | |
| 流 動 資 産 | | 現 金 預 金 | | 基 本 金 | | 基 本 金 | |
| | | 27,854 | | | | | 4,310,000 |
| 流 動 資 産 合 計 | | 27,854 | | 剩 余 金 | 次 期 繰 越 収 支 差 額 (うち当期増加額) | 27,854 | |
| そ の 他 の 固 定 資 産 | 投 資 有 価 証 券 | 4,310,000 | | | | 11,878 | |
| そ の 他 の 固 定 資 産 合 計 | | 4,310,000 | | 剩 余 金 合 計 | | 27,854 | |
| 資 産 合 計 | | 4,337,854 | | 正 味 財 産 合 計 | | 4,337,854 | |
| | | | | 負 債 及 び 正 味 財 産 合 計 | | 4,337,854 | |

(注) 基本財産(基本金)たる資産: 投資有価証券 9,310,000 円

監査の結果, 収支計算及び貸借対照表の正しいことを証明します。

昭和62年4月15日

会計監査 牧 田 貢 ㊦
同 杉 本 大 一 郎 ㊦

【付録3】 昭和62年度 予 算 書

社団法人 日本天文学会

(昭和62年4月1日~昭和63年3月31日)

【一般会計】

1. 収支計算の部

収入の部 (単位: 円)

| 勘定科目 大・中・小科目 | 予算額 | 前年度 予算額 |
|-----------------|------------|------------|
| 基本財産運用収入 | 280,000 | 280,000 |
| 基本財産利息収入 | 280,000 | 280,000 |
| 会費収入 | 15,346,000 | 10,700,000 |
| 特別会員会費収入 | 7,096,000 | 5,400,000 |
| 一般会費収入 | 6,396,000 | 5,400,000 |
| 学生会費収入 | 700,000 | 0 |
| 通常会員会費収入 | 8,250,000 | 5,300,000 |
| 事業収入 | 15,635,000 | 14,420,000 |
| 欧文研究報告発行事業収入 | 10,930,000 | 8,900,000 |
| 購読料 | 5,520,000 | 5,300,000 |
| 掲載料 | 3,700,000 | 2,400,000 |
| 別刷代 | 1,710,000 | 1,200,000 |
| 天文月報発行事業収入 | 3,805,000 | 4,720,000 |
| 購読料 | 1,260,000 | 1,400,000 |
| 別刷代 | 300,000 | 20,000 |
| 広告料 | 2,245,000 | 3,300,000 |
| 年会事業収入 | 900,000 | 800,000 |
| 予稿集頒布収入 | 300,000 | 300,000 |
| 参加費 | 600,000 | 500,000 |
| 印税収入 | 400,000 | 1,200,000 |
| 星座早見印税収入 | 0 | 1,200,000 |
| 流星図印税収入 | 400,000 | 0 |
| 補助金収入 | 2,400,000 | 2,400,000 |
| 文部省刊行補助金収入 | 2,400,000 | 2,400,000 |
| 雑収入 | 1,180,000 | 1,150,000 |
| 受取利息 | 380,000 | 400,000 |
| その他の収入 | 800,000 | 750,000 |
| 当期収入合計 (A) | 35,241,000 | 30,150,000 |
| 前期繰越収支差額 | 8,647,922 | 8,214,238 |
| 収入合計 (B) | 43,888,922 | 38,364,238 |

支出の部

| 事業費 | 29,990,000 | 24,750,000 |
|-------------|------------|------------|
| 欧文研究報告発行事業費 | 16,190,000 | 12,230,000 |
| 直接出版費 | 12,520,000 | 8,800,000 |
| 別刷印刷費 | 1,000,000 | 780,000 |
| 人件費 | 820,000 | 700,000 |
| 謝金 | 700,000 | 750,000 |
| 送料運搬費 | 850,000 | 850,000 |
| 消耗品費 | 200,000 | 250,000 |
| 雑費 | 100,000 | 100,000 |
| 天文月報発行事業費 | 10,570,000 | 10,050,000 |
| 直接出版費 | 6,600,000 | 6,500,000 |
| 別刷印刷費 | 440,000 | 500,000 |
| 人件費 | 880,000 | 600,000 |
| 謝金 | 650,000 | 500,000 |
| 送料運搬費 | 1,600,000 | 1,500,000 |
| 消耗品費 | 350,000 | 350,000 |
| 雑費 | 50,000 | 100,000 |
| 年会事業費 | 3,230,000 | 2,470,000 |
| 予稿集印刷費 | 1,300,000 | 1,300,000 |
| 謝金 | 400,000 | 400,000 |
| 送料運搬費 | 280,000 | 270,000 |

| | | |
|------------------|------------|------------|
| 会場費 | 1,000,000 | 300,000 |
| 消耗品費 | 150,000 | 100,000 |
| 雑費 | 100,000 | 100,000 |
| 管理費 | 7,861,000 | 6,180,000 |
| 人件費 | 2,800,000 | 2,700,000 |
| 謝金 | 400,000 | 200,000 |
| 会議費 | 300,000 | 200,000 |
| 負担金 | 81,000 | 80,000 |
| 旅費交通費 | 850,000 | 830,000 |
| 送料通信費 | 500,000 | 400,000 |
| 什器備品費 | 600,000 | 300,000 |
| 消耗品費 | 750,000 | 600,000 |
| 印刷製本費 | 750,000 | 100,000 |
| 光熱水料費 | 80,000 | 100,000 |
| 賃借料 | 500,000 | 450,000 |
| 保険料 | 60,000 | 40,000 |
| 諸手数料 | 90,000 | 80,000 |
| 雑費 | 100,000 | 100,000 |
| 特定預金支出 | 410,000 | 100,000 |
| 退職給与引当預金支出 | 110,000 | 100,000 |
| 減価償却引当預金支出 | 300,000 | 0 |
| 予備費 | 5,627,922 | 7,334,238 |
| 予備費 | 5,627,992 | 7,334,238 |
| 当期支出合計 (C) | 43,888,922 | 38,364,238 |
| 当期収支差額 (A)-(C) | 8,647,922 | 8,214,238 |
| 次期繰越収支差額 (B)-(C) | 0 | 0 |

(注)

- この収支予算書は、「公益法人会計基準」(昭和60年9月17日 公益法人指導監督連絡会議決定、以下「新基準」という。)の実施に伴い、「新基準」によって作成している。
- 「新基準」の適用により、次のような改正があった。

作成様式: 当期収支差額の新設

退職給与引当金繰入額を正味財産増減計算書へ変更

科目の区分・配列: 収入科目について会費収入と事業収入の配列変更

支出科目について事業費と管理費の配列変更

科目名称: 大科目の引当預金支出を特定預金支出と名称変更

【特別会計】

(単位: 円)

| 会計種目/科目 | 予算額 | 前年度 予算額 |
|-----------|-----------|------------|
| 学术交流費会計 | 収入の部 | |
| 賛助会員会費収入 | 1,500,000 | 1,200,000 |
| 受取利息 | 11,000 | 12,000 |
| 前期繰越収支差額 | 83,630 | 76,770 |
| 収入合計 | 1,594,630 | 1,288,770 |
| | 支出の部 | |
| 学术交流費 | 1,580,000 | 1,280,000 |
| 予備費 | 14,630 | 8,770 |
| 支出合計 | 1,594,630 | 1,288,770 |
| 次期繰越収支差額 | 0 | 0 |
| 乗余金 | 0 | 0 |
| 内地留学奨学会会計 | 収入の部 | |
| 基本財産利息収入 | 230,000 | 240,000 |
| 前期繰越収支差額 | 27,854 | 15,976 |
| 収入合計 | 257,854 | 255,976 |

| 支出の部 | | |
|----------|---------|---------|
| 奨学金支出 | 250,000 | 250,000 |
| 予備費 | 7,854 | 5,976 |
| 支出合計 | 257,854 | 255,976 |
| 次期繰越収支差額 | 0 | 0 |
| 乗余金 | 0 | 0 |

【付録 4】 天体発見賞に関する細則

昭和12年2月 制定

昭和62年5月 改訂

1. 本細則は定款第6条に基づきこれを定める。
2. 本会は新天体の発見が天文学の発展に寄与するところが大きいという認識にたつて、新天体の発見を奨励するために天体発見賞、天体発見功労賞を設ける。
3. 新天体とは原則として、新星、超新星、彗星とする。
4. 天体発見賞は新天体を最初に発見し、速やかに報告した日本在住者に贈る。
5. 新天体の第一発見者ではないが、独立に当該天体を発見し報告した者へ天体発見功労賞を贈ることがある。
6. 本賞は天体発見賞においては賞状とメダル、天体発見功労賞においては賞状とする。また副賞を併せて贈ることがある。
7. 本賞の受賞候補者を評議員会に推薦するために天体発見賞選考委員会を設ける。理事長は若干名の委員を委嘱する。
8. 本賞の受賞候補者は評議員会において決定する。

注：この細則は昭和62年5月12日の評議員会において決定され、翌13日の総会で報告されたものである。

【付録 5】 日本学術会議会員候補者推薦内規

(昭和62年4月18日決定)

前文 日本学術会議法(昭和58年11月28日交付・法律第65号)及び、日本学術会議第93回総会(昭和59年4月25~27日)において決定された「学術研究団体の登録に関する規則」,「日本学術会議会員推

薦管理会規則」に基づき日本天文学会において、天文学専門の日本学術会議会員候補者を推薦する。

第1条

本内規は日本学術会議へ同会員候補を推薦するのに必要な事項を定める。

第2条

会員候補を決定するための手続きは選挙によるものとする。

第3条

選挙は理事長が指名する選挙管理人がこれを主宰する。

第4条

選挙有権者は本会特別会員とする。

第5条

被選挙有権者の資格は日本学術会議法の定めるところによる。

第6条

選挙管理人は天文月報誌上において選挙公示を行う。

第7条

投票は単記無記名による。

第8条

選挙管理人は選挙結果を理事長に報告する。

第9条

理事長は評議員会へ選挙結果を報告する。評議員会は上の結果に基づき候補者を決定し、推薦人の選定を行う。

第10条

理事長は評議員会決定に基づき、当選者を日本学術会議へ推薦するとともに天文月報誌上においてこれを報告する。

第11条

本内規の変更は評議員会の決定によるものとする。

注：日本学術会議法(第17条) 会員となることができる者は、その専門とする科学又は技術の分野において5年以上の研究歴を有し、当該分野における優れた研究又は業績がある科学者でなければならない。

天体発見賞に関する経緯について

庶務理事 池内 了, 神田 泰

1. 発端——「いて座新星の発見」

天文月報1985年3月号に香西洋樹氏が、「いて座新星の発見」と題された小文に書かれているように

- (1) 1983年2月19日 和久田 実氏 “いて座” 写真撮影
- (2) 1983年7月12日 小倉勝男氏 同 写真撮影
- (3) 1983年10月 和久田氏, 上記(1)より, 10等級の恒星像検出
- (4) 1984年初夏 小倉氏, 上記(2)より, 強い輝線の星像検出
- (5) 1984年8月 田代氏, 香西氏による確認 (16

～17等級)

- (6) 1984年10月17日 日本天文学会秋期年会で発表
(香西, 小倉, 本田, 和久田の
連名)

という経過があった。発見から確認まで1年余りが経過している。

2. 表彰について

1985年3月理事会では、「天体発見(功労)賞に該当するが、さらにIAU回報等による確認を待つ」として、発見(功労)賞の贈呈を「保留」とした。しかし、新星爆発後2年以上経過しているため、その後の新星確認の報告はなかった。

1986年3月理事会では、これ以上待っても確認報告は無いだろうと考え、「従来の規定により表彰する」とした。ただし、発見功労賞小倉氏は、(イ)観測を専門とする天文学者であり、(ロ)日本-インドネシア国際学術交流の一環としての研究活動中の発見であり、(ハ)研究を目的として国費で建設・運用されているボッシュ天文台のシュミット望遠鏡を使用している等の3点を考慮して、「表彰しない」という提案をすることとした。

ところが、1986年4月評議員会において、「従来の規定からは、上記のような理由で表彰しないということにはならない」「現に広瀬秀雄先生をはじめ天文台職員も受賞されており、表彰するかどうかについて、少なくとも従来は、プロとアマという区別はしていなかった」という意見が出された。また一方「今回の観測から発見報告までの時間の遅れについては、天文学の発展に寄与する目的という観点から問題である」や「X線・赤外線・電波でのプロの発見はどうなるのか」、「小惑星や周期彗星の発見は表彰しないようになったが、時代と共に発見賞の内容も異ってくる」等の意見も出された。結局、理事会提案は採決の結果否決され「理事会へさし戻す」となった。同時に、天体発見賞に関する細則があいまいであること、どのような天体の発見の、どのような発見者を表彰するかについて、掘り下げて議論することが望ましいという意見が多く、「天体発見賞検討委員会を設けて一般的に議論し、その結論が出た後選考する」と

ととなった。

3. 天体発見賞検討委員会の答申と理事会の対応

理事長より依頼された、古在由秀, 香西洋樹, 平山淳, 辻 隆, 神田 泰, 祖父江義明, 池内 了で構成された検討委員会で種々議論された結果、別紙のような「天体発見賞に関する細則」案については全員の合意が得られた。(但し、第7条の天体発見賞選考委員会設置については、検討委員会以後に新たに付け加えられた。)

この細則の検討にあたって、プロとアマの差をつけるべきかどうか、それを細則の条項に入れるかどうか、について検討委員の間で意見が分かれた。それらは、「プロももらってこそアマにとって大きな意味のある賞であるから、差をつけるべきでない」「天文学研究を目的として公の機器を用いたプロの発見は表彰すべきではない」という意見で代表される。結果として、以下のような但し書を細則につけることで同意が得られた。

天体発見賞検討委員会は、上記のような細則を提案するとともに、彗星観測を職務とするような職業的観測家については、天体発見賞受賞を辞退されるよう要望する意見のあったことを付言する。

以上の検討結果委員会の結果が1986年8月理事会に報告されたが、理事会では、「上記のような但し書を細則に付けるのは異例であり、該当者に対し失礼であろう」という意見が多く、「但し書をとって評議員会へ提案する」「評議員会で決定された後、上記経緯をまとめ天文月報誌上で報告し、後の参考とする」という方針で進めることとなった。

4. 結 果

1986年度の新天体発見賞は、新細則が1987年4月18日の総会議案を決定する評議員会までに決定されていなかったため、旧細則に従って候補を選考し、総会へ提案された。新細則は、5月12日評議員会で決定され、5月13日総会で承認を受けた。なお、天体発見賞選考委員会委員を、香西洋樹, 古在由秀, 山下泰正の3氏に委嘱した。